



特別展  
「グスク展」へのご案内

勝連グスク

館長 大城立裕

グスクは沖縄の古代における支配者の居所ですが、そこに私たちは、古代人の生活の様子や信仰、世界観さえも見ることができます。

近年、グスクの研究がさかんになったのは、沖縄歴史研究の画期といつてよいと思いますが、その流れにそって、こんど特別展「グスク展」を企画しました。原始人類から首里王朝文化の基礎をつくった大交易時代にいたるまでの、奄美から先島にひろがる琉球弧のグスクのダイナミズムを見ていただきたいと思います。

たんにグスクのみにとどまらず、沖縄の歴史と文化の特質を最も端的に見ることのできる機会だと思いますので、とくに学校教育に活用していただければと思います。

期日：昭和60年11月1日(金)～12月1日(日)

場所：沖縄県立博物館

展示内容

人類の登場からグスクまで

港川人・古代鹿・貝塚時代の土器石器  
弥生文化の流入

グスクとは

グスクについての考え方—グスク論争—

初期のグスク

熱田貝塚・我謝遺跡等出土品

大交易時代のグスク

交易地図・明孝宗帝の勅書・首里那覇の図  
進貢船・万国津梁の鐘・首里グスク  
南山グスク・今帰仁グスク・勝連グスク  
浦添グスク等の出土品

宮古・八重山の原始時代からグスクまで

長間底遺跡・下田原遺跡・フルスト原遺跡  
等の出土品他

奄美諸島の原始時代からグスクまで

ヤーヤ洞穴遺跡・サウチ遺跡・宇宿貝塚  
七城・面縄グスク・円グスク等の出土品

## 企画展「<sup>びんがた</sup>紅型衣裳と型紙」開催される

紅型の技法は18世紀頃までには、すでにできていました。紅型の歴史は実物資料や文献等の資料が少ないため、いつ、どこから、どのようにして沖縄に入り、発達したのか不確かな部分が多く、明らかではありません。日本の茶屋辻や友禅、中国の印花布や更紗などの影響を受けたといわれていますが、その全容はつかめていません。いずれにしても、紅型は華やかな王朝時代を象徴するかのよう沖縄のあかるい色を最大限に現わしています。

今回の展示会は当博物館に所蔵されている紅型衣裳と型紙を一堂にあつめて、紅型の技術の確かさを広く県民に紹介することを目的としました。

展示内容は2階ロビーと第3展示室を使い、2階ロビーでは複元した型紙と実際に染めた見本を中心に、その工程を写したカラー・パネル、諸道具、顔料などを展示し、紅型ができあがるまでの工程をわかりやすくしました。また、同ロビーには当博物館所蔵の型紙をできるだけ多く展示し、紅型の変化にとんだ文様を紹介しました。第3展示室では同じ文様の衣裳と型紙を中心に紅型の文様は型紙によって決定づけられることをわかりやすく展示しました。



これほど多くの型紙を展示するのは今回が初めてのことであり、参観者も2、3回足をはこぶ人もあり、また、紅型関係者も多く見学したようです。

### 第130回文化講座

## 収蔵品解説会「紅型の世界」

企画展「紅型衣裳と型紙」の会期中、教育庁文化課渡名喜明専門員を講師に迎え、「紅型の世界」と題して、今年度最後の文化講座が行なわれました。紅型の多岐にわたる技法をスライドと当博物

館所蔵の紅型衣裳によって説明がなされました。そのあと、解説会の場所を企画展の展示会場に移して、受講生は展示品についての細かい説明を受けながら紅型の世界を堪能していました。



# 博物館の利用について考える

小野 まさ子 (教育普及補助員)

案内コーナーから第2弾です。今回、皆さんに提案したいことを2点程書いてみます。

## 1. 「博物館をみんなで作っていこう」

このように書くと「博物館は、ここにあるではないか。」とか、「まさか、建築家でも研究者でもないのにできるわけがない。」と不思議がる人、あきれかえる人も多いと思います。確かに、直接博物館造りに関わるのは建築家であり、学芸員等の専門家であるかも知れませんが、しかし、博物館は、皆さんが自分達の為に、自分達の町に、博物館がほしいんだと思っていただく事によって造られ、維持されていくのです。特に、沖縄県立博物館の前身である首里市立郷土博物館は、人々の「博物館がほしい」「戦争前のすばらしい首里をよみがえらせたかった」との思いにより造り育てられてきたのだという実績があるのです。当時、この思いは焼け跡からの文化財残欠収集という実際の活動にまで結びつく程の強さをもったということを知っています。ところで、私は皆さんに昔の如くと言っているわけではありません。博物館に対する思いは当時も今も変わりなくあることは、入館者数にはっきり現われています。ただ、ほんのすこしだけでも、言葉としてその思いを口に出して欲しいのです。もっと、博物館に要求、要望を寄せていただきたいのです。たとえば、「――が見たい」とか「スライドやビデオなどの付属資料が活用したい」等です。もちろん、博物館での要求や要望がすぐその場でかなえられるという事は少ないかも知れませんが、しかし、皆さんの声は博物館の、また、学芸員のよりよきデータとして十分に活かされていくのです。そして、展示替え等の中で実際に具体化され、皆さんをより満足させ、博物館への思いをますます強めてくれるというすばらしい効果をもたらしてくれるだろうと思います。案内コーナーというのは、こういう働きをするためにある仲立ち役であると思っています。

## 2. 「生涯学習と博物館」

生涯学習というのは普通、生涯教育といわれる

社会教育の最重要テーマです。人々は学校教育のみでなく、生涯なんらかの形で学習をしていくものであるし、また、していかなければならないというのが簡単な内容であると理解しています。現在、生涯教育(学習)は各趣味の教室や期限を決めて行われる私的、公的講座を主流に行われています。しかし、生涯教育(学習)には自分に合わせて自由な時間に個々の目的をもっておこなう学習の形があります。その為の場所として博物館や図書館等の施設があるのです。でも、いざこのような施設を使おうというときに基本的な使い方がわからないというのでは有効に使うことができないのではないかと思います。この基本的な使い方を身につける為には小さい頃から小さな目的でもよいですから何か目的を持って博物館をひんぱんに訪ねてくださるのが一番だと思います。私達は目的という言葉を知るとたいへん難しいことのように考えてしまいがちですが、例えば公共の場でのマナーを身につけるためでも良いし、また、家族で展示してある民具等を見ながら昔の町の様子や自分の生きてきた人生を語ってあげても良いのではないのでしょうか。目的はいろんな所にあふれているのです。しかし、現状は保護者や引率者のちょっとした不注意から、その機会を失っているようなのです。悲しむべき事に学校団体利用に於いても起こっているのです。これはずっと続いていくべき生涯学習の第1歩目でのつまづきになりかねないのです。小さな機会がその人の未来を作り出していくということもあるものです。

みなさん、子供達の未来のためにももっと注意しつつ、しかも気軽に博物館を見学してもらえないでしょうか。

最後に私の考える博物館の基本的な使い方を書いて終りたいと思います。博物館とは、自分が自分の為に、自分の目的を持って学習に使用する場であり、その一人一人が隣にいる自分とおなじような人々を思いやってあげる場であって、これは全ての学習や公共のマナーに通じるものであろうと思っています。

# 昭和60年度博物館行事案内

## 展 示

### 常設展

「沖縄の自然・歴史・文化」

### 企画展

「新収蔵品展」

期日：5月1日（水）～5月19日（日）

場所：沖縄県立博物館二階ロビー

「第9回移動博物館—伊是名村—」

期日：6月8日（土）～6月9日（日）

場所：伊是名村離島総合センター

### 特別展

「グスク展」

期日：11月1日（金）～12月1日（日）

場所：沖縄県立博物館歴史展示室

「大嶺薫コレクション展」

期日：2月18日（火）～3月16日（日）

場所：沖縄県立博物館歴史展示室

## 休 館

### 休館日

毎週月曜日・祝祭日・年末年始

### 臨時休館日

(1) 6月17日（月）～6月24日（月）

燻蒸・常設展示替

(2) 10月21日（月）～10月31日（木）

特別展準備

(3) 12月2日（月）～12月11日（水）

片付け・燻蒸・常設展示替

(4) 2月10日（月）～2月17日（月）

特別展準備

(5) 3月17日（月）～3月24日（月）

片付け・常設展示替

## 特別企画

「自然標本同定会」

期日：8月18日（日）

場所：沖縄県立博物館一階ロビー

「グスクシンポジウム」

期日：11月2日（土）

場所：沖縄県立博物館講堂

## 博物館文化講座

第131回 4月20日（土）

題：「三線解説会」 定員：50人

講師：又吉真三・黒島惇

第132回 7月27日（土）

題：「昆虫標本解説会」 定員：30人

講師：東 清二

第133回 8月11日（日）

題：「民具教室」 定員：30人

講師：上江洲 均

第134回 8月17日（土）

題：「拓本教室」 定員：30人

講師：崎間麗進・又吉真三・上江洲敏夫

第135回 8月23日（金）～8月25日（日）

題：「紅型教室」 定員：20人

講師：藤村玲子

第136回 9月8日（日）

題：「南部のグスクめぐり」 定員：45人

講師：知念 勇

第137回 9月28日（土）

題：「陶器解説会」 定員：30人

講師：宮城篤正

第138回 11月16日（土）

題：「グスク展示資料解説会」 定員：30人

講師：知念 勇

\* 博物館文化講座の受講受付は4月9日（火）より始め、定員に達ししだい締め切ります。

## その他

九州博物館協議会 総会・研修会

期日：5月24日（金）～5月25日（土）

場所：沖縄郵便貯金会館（那覇市）

## 沖縄県立博物館だより No.23

発行年月日 昭和60年3月30日

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 〒903 那覇市首里大中町1-1

TEL. 0988-86-4353  
84-2243